

短 信

会長短信

政 志 郎

小野先生から引継いで早一年が経ちますが此れと言う仕事もせず反省しております。

航空部自体が地味なスポーツであり、又戦績もいまいちで同志社スポーツ祝勝会での表彰もここ数年途絶えています。2003年祝勝会において小野先生が翔友会々長としての功績で顕彰されました事をご報告いたします。小野先生他5部の会長様方が顕彰されました。

同志社スポーツユニオンの創立50周年記念行事が開催されます。2004年6月5日(土)PM5:00京都ホテルオークラ、出席者は各部10人前後に限定されることとなりますが翔友会幹事の方は出席を要請いたします、ご協力お願いします。

社会環境の変化に伴い大学の体制変化も求められていますが、今年4月より大学にスポーツ振興課が創設され学生スポーツの振興及びスポーツを通して大学PRに寄与することを念じて学生スポーツの活性化を図り立後れているスポーツ支援活動に本腰を入れ、明るい将来の夢を描き学生スポーツ強化が期待されます。

現役の活動状況は同立戦、関西4大学対抗戦に出場するギリギリの選手数であり、少数精鋭で戦

うとはいえ過酷な状態である。部員確保が重要な課題である。部長先生・監督・コーチの方々の熱心な指導、又翔友会幹事のアドバイスや指導にも拘らず現状から脱皮できない。

グライダーはマイナーなスポーツでもあり華やかさはないが澄み切った青空高く、音も無く滑るような滑空の醍醐味を感じる学生を探すことから始めねばならない。

新学期の始まる10日間位が新入部員獲得の重要な期間であり、現役部員が新しいアイデアで部員獲得戦術を練って準備怠りなく進めてくれているであろう。入学式後の勧誘活動を楽しみにしたい。現役学生への経済的な支援も重要な課題である。翔友会としてももっと支援額を増やしてやりたいが翔友会費の回収率が低下し現状の活動が精一杯である。

OB・OGの皆様会費支払いのご協力お願いします。大学のスポーツ振興課の活動状況の見極めながら航空部活性化に向けてのアドバイスを受入れ、有効な方法・手段があれば活用し、新しい航空部に変革していく為の支援策が無いものか悩んでいる最中です。

部長短信

山口博司

長い航空部の発展の歴史の中で、かつては動力機も操縦していた、と聞いたことがあります。その時代、時代でいろいろな形で、その時代の人々が大空への挑戦を行っていた訳です。登山家は、なぜ山に昇るのか、と言う質問には、たいてい、そこに山があるからである、と答えるようで、大空への挑戦者たちも、やはり、そこに空があるから飛びたいのですと答えるでしょう。ただ、山と違い、空はどこにでも、私たちの上に広がっております。このような事を考えて見ると、何とかして、自分たちの翼で飛ぼう、と言う願望は大空への挑戦者の基本的なものであるような気がいたします。

今年度から、航空部のXプロジェクトとして、鳥人間参加を目標に、自作グライダーの作成が始まりました。競技スポーツとしてのグライダーは、これ航空部の大空への挑戦であります。この基本的な方向は、これまでとまったく変わりありません。しかし、Xプロジェクトもまた、同じ挑戦でもあり、大いにガンバッテ頂きたいと思います。多様性、これからのクラブのあり方でもあるように思います。

Xプロジェクトを含め、今後とも、航空部への会員皆様方の暖かいご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

監督短信

森川 泰

監督に就任させて頂いてから2年が過ぎようとしています。この1年はどうであったか。楽しくかつ強い同志社航空部を実現する道のりは長いですが、何とか一步を踏み出せた様な気がしております。というのも、山口部長先生のご尽力によるところが大きいですが、多くの1年生を迎えることが出来、部員数の問題を半分解決することが出来ました。また、同立戦では接戦を演じるなど競技会でも実力の一端を見せてくれました。しかしながら、結果には結び付かず、学生諸君はさぞかし残念であったことと思いますが、私としても大変残念であり、監督としての指導不足を反省しております。今年も次の一步を踏み出し、確実にクラブを再生させて行きたいと思っております。

まず昨年をもう少し振り返ってみたいと思います。まず部員数ですが、先ほども述べた様に回復しており喜んでおられるところですが、ここ暫く部員数が少なかったことが災いしており、上級生の努力にもかかわらず十分に指導できておらず1年生の力を十分引き出せておりません。部員数が少なかった影響で、様々なクラブ運営のノウハウが失われていてクラブが組織として十分に機能しているとは言えませんでした。指導陣も努力してきたつもりですが、クラブ運営に関する助言をもっとしなければならなかったと反省するところであり、学生諸君も自分達で考えてクラブ運営を工夫していくとともに教官らやOBの方からノウハウを聞き出す努力が必要だったのではないのでしょうか。一方、フライトに関しては結果を残すことが出来ませんでした。同立戦などで接戦を演じたり、2人の選手が全国大会に向けて東海関西競技会で戦うことが出来ました。少ない部員のなかで上級生は良く頑張ったと誇りに思うとともに、基本的

には我々指導陣の指導に大きな間違いはなかったと確信しております。勿論、我々指導陣もより良い指導が出来る様に改善の努力を怠ってはいけないと思っております。あと残念であったのが、我々や上級生の指導が不十分であったこともあり、1年生の合宿への積極的な参加が少なかったことです。勿論、積極的に頑張ってくれた学生もいました。十分なエネルギーは持っていると思いますから、今年は積極的な活動を期待します。

さて、今年の課題としては新なる部員数の確保と部員全員の技量向上そして競技会で戦うことの出来る選手の育成です。この文章が皆さんの目に触れる頃には結果が出ていると思っております。今年も10人程の新入生を迎えられることを期待しています。十分な新入生を迎え入れられればクラブが組織として機能し易い規模になり、各個人の負担も減るものと思います。しかしながら、今年は少ない上級生と新2年生がクラブを引っ張って行かねばならず、大変であると思います。特に主将と新2年生の頑張りを期待します。フライトに関してはまずは部員全員の技量向上が大切と考えています。指導陣もいかに効率良く技量向上してもらおうか考えながら指導していきますが、まずは合宿に参加して飛ばないことには始まりません。学業が大変なのは承知していますが、少しでも多く合宿に参加し飛行回数を伸ばしてもらいたいと思います。基本操作が出来るレベルになるとグライダーの楽しさが分かってくると思います。また、多くの学生に同立戦などを意識して戦えるレベルまで技量を高めてもらいたいです。

最後に、今年は同志社航空部の底力を付ける大切な1年になると思います。一致団結して頑張ってください。